

■■最強の投資手法「スーパーボリンジャー」によるシンプルトレード■■

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。分析は、全て、先週末12月27日のNY時間午後5時時点での判断です。

<<<主要7通貨相場週足、日足、4時間足、1時間足分析>>>

「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

例えば、ポジショントレードであれば、主に日足での売買判断、

スイングトレードであれば、主に4時間足での売買判断、

ゆったりデイトレードであれば、主に1時間足での売買判断、

デイトレードであれば、主に5分足での売買判断となります。

■ドル円

<<週足>>

レンジ局面の上限である+2σラインに到達。

今後、本格上昇トレンド局面入りするか、レンジ局面継続するかの瀬戸際に位置。

尚、本格上昇トレンド局面発生の際の「相場の上放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、
- 2) 終値が+2σラインの上方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+2σラインをブレイクする、等々。

上記の条件が整えば、買いエントリーが推奨される。

一方、今後、終値が+1σラインを下回ると改めてレンジ局面継続の可能性が高まるため、目先は売り戦略が推奨される。

<<日足>>

本格上昇トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陽転している、(2)初動で終値が $+2\sigma$ を上回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

尚、終値が $+2\sigma$ ラインを上回る「走る相場」となった後だけに、「リバーサルパターン」の発生には注意しておきたい。

「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、終値が $+2\sigma$ を上回った後、

(1)現在値が1本前の安値をブレイクすること、(2)終値が $+2\sigma$ ラインを下回ること、の両方を満たすこと。

<<4時間足>>

本格上昇トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陽転している、(2)初動で終値が $+2\sigma$ を上回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<1時間足>>

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけて

の価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

■ユーロドル

<<週足>>

本格下落トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陰転している、(2)初動で終値が -2σ を下回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が -1σ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

尚、「リバーサルパターン」が発生しており、底堅い展開を示唆している点に注目。

「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)現在値が1本前の高値をブレイクすること、(2)終値が -2σ ラインを上回ること、の両方を満たすこと。

<<日足>>

調整反騰局面。

終値が -1σ ラインを上回って以降、調整反騰局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は買いを優先させたい局面。

そして、センターラインは最初の戻りの目途となるが、終値がセンターラインを上回ると、 $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面に入る。

一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面

に入る可能性が高まる。

尚、遅行スパンが陽転しないかぎり、センターラインから+2 σ ラインにかけての価格帯は、一旦は売りゾーンと読む。

また、終値が-2 σ ラインを下回るまでは、-1 σ ラインから-2 σ ラインのゾーンは一旦は押し目買いチャンスと判断する。

<<4時間足>>

本格上昇トレンド局面入りの兆候。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陽転している、(2)初動で終値が+2 σ を上回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と+1 σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1 σ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1 σ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<1時間足>>

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1 σ ラインから+2 σ ラインにかけての価格帯は売りゾーン、-1 σ ラインから-2 σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が+2 σ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクspansion」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 σ ラインをブレイクすること、等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

■豪ドル/ドル

<<週足>>

本格下落トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陰転している、(2)終値が -1σ を下回り続けている、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が -1σ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

<<日足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、緩やかな下落トレンドの特徴がセンターラインと -2σ ラインの間を往来しながらゆっくりと下落するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は戻り売り戦略が有効となり、 -2σ ライン近辺では押し目買い戦略が有効となりやすい。

一方、終値がセンターラインを上回ると、本格的な調整反騰局面入りする点には注意しておきたい。

<<4時間足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、緩やかな下落トレンドの特徴がセンターラインと -2σ ラインの間を往来しながらゆっくりと下落するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は戻り売り戦略が有効となり、 -2σ ライン近辺では押し目買い戦略が有効となりやすい。

一方、終値がセンターラインを上回ると、本格的な調整反騰局面入りする点には注意しておきたい。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクspansion」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

■ポンドドル

<<週足>>

レンジ局面の下限である -2σ ラインに到達。

今後、本格下落トレンド局面入りするか、レンジ局面継続するかの瀬戸際に位置。

尚、本格下落トレンド局面発生の際の「相場の下放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクspansion」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 -2σ ラインをブレイクする、等々。

上記の条件が整えば、売りエントリーが推奨される。

一方、今後、終値が -1σ ラインを上回ると改めてレンジ局面継続の可能性が高まるため、目先は買い戦略が推奨される。

尚、「リバーサルパターン」が発生しており、底堅い展開を示唆している点に注目。

「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、終値が -2σ を下回った後、

- (1) 現在値が1本前の高値をブレイクすること、
 - (2) 終値が -2σ ラインを上回ること、
- の両方を満たすこと。

<<日足>>

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1 σ ラインから+2 σ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1 σ ラインから-2 σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が+2 σ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクspansion」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 σ ラインをブレイクすること、等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

<<4時間足>>

本格上昇トレンド局面入りの兆候。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陽転している、(2)初動で終値が+2 σ を上回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と+1 σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1 σ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1 σ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<1時間足>>

本格上昇トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陽転している、(2)初動で終値が+2 σ を上回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と+1 σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1 σ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1 σ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープ

する一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。
そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

■ユーロ円

<<週足>>

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

<<日足>>

本格上昇トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陽転している、(2)終値が $+1\sigma$ を上回り続けている、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<4時間足>>

本格上昇トレンド局面。

判断根拠は、(1) 遅行スパンが陽転している、(2) 初動で終値が $+2\sigma$ を上回ったこと、(3) バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクspansion」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアされることが望ましい。

■豪ドル円

<<週足>>

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が+2 σ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 σ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

<<日足>>

本格的な調整反騰局面。

終値がセンターラインを上回って以降、+2 σ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りしていると判断。

トレード戦略としては、目先、買い戦略が有効な場面ではあるが、今後、遅行スパンが陽転しないかぎり、+1 σ ラインから+2 σ ラインのゾーンは、一旦は戻り売りチャンスと読む。尚、今後、遅行スパンが陽転し、終値が+2 σ ラインを上回り、バンド幅が拡大傾向に転じる場合は、本格上昇トレンド局面入りする点には念のため注意しておきたい。

<<4時間足>>

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1 σ ラインから+2 σ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1 σ ラインから-2 σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
 - 2) 終値が+2 σ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 σ ラインをブレイクすること、
- 等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

<<1時間足>>

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。特に、(2)の条件がクリアされることが望ましい。

■ポンド円

<<週足>>

レンジ局面の上限である $+2\sigma$ ラインに接近中。

今後、本格上昇トレンド局面入りするか、レンジ局面継続するかの瀬戸際に位置。

尚、本格上昇トレンド局面発生の際の「相場の上放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクする、等々。

上記の条件が整えば、買いエントリーが推奨される。

一方、今後、終値が $+1\sigma$ ラインを下回ると改めてレンジ局面継続の可能性が高まるため、目先は売り戦略が推奨される。

<<日足>>

本格上昇トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陽転している、(2)終値が $+1\sigma$ を上回り続けている、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<4 時間足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと $+2\sigma$ ラインの間を往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が有効となり、 $+2\sigma$ ライン近辺では戻り売り戦略が有効となりやすい。一方、終値がセンターラインを下回ると、本格的な調整反落局面入りする点には注意しておきたい。

<<1 時間足>>

本格上昇トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陽転している、(2)初動で終値が $+2\sigma$ を上回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

以上です。